

乳幼児歯科保健事業の体系化に関する研究

橋本勢津^{*}，加藤伸二^{**}，田所光正^{**}

要約：0～18か月児の育児担当者253名を対象に、保健婦、栄養士による家庭訪問調査を行い、う歯予防に必要な保健行動の実態と、これに関する情報がどの場面で、誰によって提供されているかを検討したところ、離乳食開始期以前における保健事業の場面での歯科保健指導の強化と、保健婦ばかりでなく他の職種もこれにかかわる必要性が指摘された。

見出し語：乳幼児、う歯、保健事業、離乳期

1. はじめに

本研究は、乳幼児のう歯予防を、母子保健全体の中に位置づける視点から、育児担当者に必要な歯科保健行動を定着させるためには、必要な保健情報を誰がどのような場面で提供したらよいかを検討することを目的として実施した。

2. 研究方法

県内の保健所（15）からそれぞれ1市町村を調査地区として選定し、月齢0～18か月までの乳幼児の育児担当者合計253名を対象に、保健婦、栄養士からなる調査班により、乳幼児期のう歯予防にかかわる保健行動の中から3つを選び、すなわち

- 1) ほ乳ビンで甘い飲み物を与えない。
- 2) 菓子や甘い飲み物は早期から与えない。
- 3) 断乳は誕生日を目処に終了する。

について、「実行しているか」及びこれに関する情報の入手経路等を聴きとり調査し分析した。

3. 結果・考察

- 1) 「ほ乳ビンで甘い飲み物を与えてはいけない」の指導を受けた者は約60%あったが、約24%が与えた経験をもっており、離乳食開始期に離乳食の準備として与えた者が多かった。
- 2) 「菓子や甘い飲み物を早期から与えない」の指導を受けた者は約50%あったが、8か月までに与えてしまった者が60%あり、中

でも「赤ちゃんせんべい」、「タマゴボーロ」、「プリン」、「ヨーグルト」を離乳食の一貫として、5～6か月頃より与えていた者が目立った。

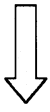
- 3) 約80%の者が満1歳までに断乳するよう指導を受けていたが、約半数のみがこれを実行していた。
- 4) 3つの歯科保健行動に関する情報が提供されている場面は、いずれも乳児健診・相談の場面が最も多かった。また、提供する職種は、保健婦が圧倒的に多く、次いで栄養士であった。小児科医、歯科医師、歯科衛生士は少なかった。
- 5) 以上1)～4)より、離乳食開始以前の乳児健診・相談あるいはそれ以前の機会に情報を提供することと更に保健婦ばかりでなく、小児科医をはじめ他の保健従事者からも、指導することの必要性が指摘された。

・岩手県宮古保健所

・岩手県環境保健部保健予防課

(Miyako Health Center, Iwate Pref.)

(Health and Prevention Division, Iwate Pref.)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:0~18か月児の育児担当者253名を対象に、保健婦、栄養士による家庭訪問調査を行い、う歯予防に必要な保健行動の実態と、これに関する情報がどの場面で、誰によって提供されているかを検討したところ、離乳食開始期以前における保健事業の場面での歯科保健指導の強化と、保健婦ばかりでなく他の職種もこれにかかわる必要性が指摘された。